

|             |                                                                                                                                                                                                                                              |
|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 事業名      | 国際規格適正化調査研究(すべり軸受/用語分野の適正化)                                                                                                                                                                                                                  |
| 2. 団体名      | (社)日本機械学会ISO/TC123滑り軸受国内委員会                                                                                                                                                                                                                  |
| 3. 出張目的     | (1)TC123/SC6幹事国として第3回のSC6会議主催<br>(2)ISO/TC123/SC2、SC3及びSC5会議に出席                                                                                                                                                                              |
| 4. 出張者      | 洪 秀明(大豊工業株)                                                                                                                                                                                                                                  |
| 5. 同行者      | 染谷常雄委員長他 同行者 8名                                                                                                                                                                                                                              |
| 6. 出張先及び面談者 | 開催場所: 仏国 パリ市 (Union de Normalisation de la Mécanique (UNM)<br>45, rue Louis Blanc 92038 Paris La Défense Cedex France)<br>主催国対応者: N.Ludivion<br>その他会議出席者                                                                                     |
| 7. 日程表      | 11月27日(月)中部空港発、仏国 パリ市着 (パリ市街宿泊地)<br>11月28日(火)宿泊地会議室にてTC123/SC6 会議事前打合せ<br>11月29日(水)UNM移動(以後会議はすべてUNM): SC6会議出席<br>(日本幹事国10:00~15:00)<br>11月30日(木)午前TC123/ SC2会議出席/午後TC123/SC3出席<br>12月 1日(金)TC123/SC5会議出席<br>12月 2日(土)パリ出発<br>12月 3日(日)中部空港着 |
| 8. 出張概要     |                                                                                                                                                                                                                                              |

## (1) 全般

前回のTC123/SC国際会議(2006年3月1日~3日、Rugby開催)の決議に従って、2006年11月29日~12月1日にParisでTC123所属のSC6、SC2、SC3及びSC5会議が行われた。出席者は3カ国、合計17名で、その内訳は日本上記9名、ドイツ7名(K. Deicke, M. Steeg, M. Haeuser, M. Hukker, K. Pucher, R. Koring, R. Oberdrevermann)、フランス1名(N. Ludivion)。なお、日本派遣団は、会議前日の11月28日(火)に現地最終打ち合わせを、又12月1日(金)に総括を宿泊Hotelの談話室で行った。次回国際会議は、2007年6月13日~15日、北京での開催が決まった。以下に各SCの概要を記す。

## (2) SC6(用語及び一般事項)、議長: 染谷

午前中は、予定のTC123会議が幹事・議長不在で開催できなかったため、SC6の日独打ち合わせを行い、午後に予定通りSC6会議を行った(議長: 染谷)。まずWD4378-1~WD 4378-3(用語)に関しては、山本Project Leaderから日本案を説明したところ、異議なくCD投票に回付する事(1ヶ月以内)が了承された。次にWD4378-4及び-5(記号)はドイツのHukker氏がProject Leaderであるが、ドイツ規格修正案に対して山本Project Leaderが準備した詳細な資料をもとに説明し、これもCD投票に回付する事(2ヶ月以内)で合意された。

## (3) SC2(材料及び潤滑剤、その性能、特性、試験方法及び条件)、議長: Mr. Deicke

DIS 6281(Test Rigによる軸受試験法)は日本が根本的に改正案を提出した規格であるが、反対投票がなかったため、近くIS規格として出版される。次に、CD 7146-1(軸受損傷)及びWD 7146-2(キャビテーション・エロージョン)が審議された。これら2件は日独間で議論があり、審議に時間を要したため、最近TMBに申請の上、審議期間延長を認められたものである。CD 7146-1については、2006-04-24に投票が開始され3カ国Pメンバーの賛成でSimple Majorityを得た。この時の日本提出のコメントは幹事国がほぼ全部が取り入れて規格案を修正し、2006-10-05にSC宛にDIS 7146-1出版用に送付した。なお上記日本提出のコメントに対し幹事国からObservation of Secretariatとして一部反対意見があったが、これに対して今回日本側から説明を加えたところ、賛成に変更された。又同様にドイツ側提出のTable 1についても、今回日本から修正を求めたところ、ドイツ側からも日本案への賛成意見が出る等して、日本の修正案が認められた。これらのコメントはDIS投票後の日・独コメントとする事となった。

次にWD 7146-2も2006-04-24に投票にかけられ、4カ国Pメンバーの賛成でSimple Majorityを得た。日本から出した僅かなEditorial修正を加えた規格案を幹事国から2006-11-21にSC宛にDIS出版用に送った。今回も本件に関しては、特に異議は出なかった。

ISO 7148-1及び-2は、NWIPへの参加国とエキスパート不足のため、残念ながら今回は見送りとなったが、幹事国から未投票国に再度投票依頼する事となった。この他にドイツ側から5件(ISO 4381, ISO 4383, ISO 4384-1, ISO 4386-1及びISO 4386-2)の見直しが提案され、NWIPに回付される事となった。又、ドイツ側から提案された定期見直し方法の修正案については、幹事国がISO中央事務局とTMBに接触する事となった。

(4) SC3(寸法、許容公差及び構造詳細)、議長:Mr. Hukker

FDIS 3547-1~FDIS 3547-4(巻きブシュ)は8カ国のPメンバーの賛成が得られたので、近くISO規格として出版される。ISO TRxxx(元WD12129-3:クランク軸受環境)はNWIPとして回付する事とした。WD 3548-1(半割り薄肉軸受)の規格案をドイツが次回中国会議までに準備する事となった。又全参加者は次回の中国会議までに新たな審議事項(NWIP)を発案するよう議長の要請があった。

(5) 特記事項及び感想

①事前準備のお陰で会議の進行がスムーズに行えた。特に、SC6においては、5件のWDをすべてCDに進める事が出来た。又、SC2でも懸案の規格案CD7146-1及びWD7146-2がほぼ日本提案通り進める事が出来た。

② 前回の会議(Rugby会議)で親委員会TC123から開催の申し出があったTC123会議は、会議当日まで親委員会から連絡がなく、開催出来なかった。この件については、ISO中央事務局宛にDINから連絡を取る事になったが、残念であった。又SC2及びSC5の議長の交代も未登録であるので至急処置するべきである。

③ 参加国数が前回会議の6カ国(日本、ドイツ、フランス、イギリス、中国)に比べて、今回は3カ国(日本、ドイツ、フランス)であった。近年の参加国の減少の原因として、欧米諸国では、滑り軸受の開発がドイツへ集中している事、又各国のエキスパートが定年退職で後継者が育っていない事、大学研究者に規格作りへの関心が薄く、又予算的裏づけがない事、等によると考えられる。退職者を具体的にあげると、今回ドイツではSteeg議長が、イギリスではJebink氏が退職し、来年ドイツの秘書Oberdrevermann氏が退職する。又今回、折角フランスで開催したにも関わらず、同国からはTC123の秘書1名のみでの参加に終わり、残念であった。いずれにせよ、日本は今後参加国の増加を図る必要がある。

9. 今後の見通し

(1) 新しく審議すべき規格案が少ない。特に滑り軸受国際標準化への参入が遅れた日本からは新規案件提出が期待されているので、最近の技術動向をも踏まえて、我々はその努力をすべきである。

(2) 次回の北京会議(2007-6-13~6-15)までは、時間が残すところ6ヶ月余りと比較的短いので、準備を出来るだけ早めに行う必要がある。

10. その他

今回出張の経費は、TC123/SC6議長、幹事は重点TC海外出張旅費を、コーディネーターを除くその他の委員は国際規格適正化再委託費の海外出張旅費の支援を戴いたことを付記します。